

中国における体育教科書の使用状況に関する研究 —小学校教師を対象とした質問紙調査を中心に—

劉俊彤 山平芳美 松本佑介 辻翔吾 齊藤一彦
広島大学大学院 立命館大学 広島大学 広島大学大学院 広島大学

概要：本研究は、中国の小学校体育教師を対象に、体育教科書の使用状況を把握し、それに影響を与える要因を明らかにすることを目的とする。目的を達成するために、中国の公立小学校体育教師 179 名を対象に「WJX」オンラインプラットフォームで質問紙調査を実施した。質問紙調査の内容は、第一部では教師の性別や教職経験年数といった基本属性を尋ね、第二部では体育教科書の使用に影響を与える要因を探した。データ分析には SPSS を用いて一元配置分散分析を行った。主な結果として、80%以上の教師が体育授業で頻繁に教科書を使用していることが示された。そして、教職経験が豊富な教師ほど教科書を積極的に活用する傾向があることが示された。また、教科書への評価、体育授業の実施状況、体育の内容に対する理解、体育授業に対する意欲、そして体育に対する周囲の関心が、教科書の使用に大きな影響を与えていることが明らかになった。

キーワード：中国、体育、教科書、小学校、質問紙調査

Research on the Use of Physical Education Textbooks in China —A Survey of Elementary School Teachers—

Juntong LIU *Yoshimi YAMAHIRA* *Yusuke MATSUMOTO*
Hiroshima University *Ritsumeikan University* *Hiroshima University*
Shogo TSUJI *Kazuhiko SAITO*
Hiroshima University *Hiroshima University*

Abstract: *The purpose of this study is to examine the use of physical education textbooks by Chinese elementary school physical education teachers and to clarify influencing factors. A questionnaire survey was conducted on the online platform "WJX," targeting 179 Chinese public elementary school physical education teachers. The survey consisted of two parts: the first gathered basic attributes such as gender and teaching experience, while the second investigated factors influencing textbook use. Data analysis employed one-way ANOVA using SPSS. Results showed that over 80% of teachers frequently used textbooks in physical education classes. Teachers with more experience tended to use textbooks actively. Additionally, it was revealed that the evaluation of textbooks, implementation status of physical education classes, understanding of physical education content, motivation for physical education classes, and interest in physical education from others significantly influenced the use of textbooks.*

Keywords: *China, Physical Education, Textbooks, Elementary School, Questionnaire Survey*

I. はじめに

1. 中国における義務教育体育教科書改革の動向

近年、中国の教育改革が進むなかで、教科書改革は基礎教育、特に義務教育段階における教育の質を向上させるための重点課題となっている。体育は義務教育の重要な構成要素であり（郁，2015）、その中で体育教科書の改革も同様に重要とされている。この背景を受け、2020年10月に中共中央弁公庁と國務院¹弁公庁は「關於全面加強和改進新時代學校體育工作的意見（新時代における學校體育の全面的な強化と改善に関する意見）」を發表し、「體育教科書體系に関わる整備を強化すること」（陳・張・徐，2022，p.72）を明確に打ち出した。體育教科書體系の整備は、體育授業内容の改善や體育教科書の改訂を通じて教育の質を高め、教師の指導力を向上させることで、児童・生徒の総合的な素質の発展を促進することを目的としている（中華人民共和國中央人民政府，2020）。

盧（2015）は「課程標準は、教科書の改訂、教師による指導法、学習および試験の評価の基礎であり、国家が教育を科学的に管理し、評価するための根拠である」（p.76）と述べている。課程標準の改訂の変遷を見ると、2011年には、教師が教科書改革における計画者、構築者、実施者としての重要な役割を担うべきである観点が示されていた（楊・季，2011）。さらに、2022年の課程標準（中華人民共和國教育部，2022）では、教師の多様な指導法を促進するため、教科書に具体的な指導事例や評価事例が追加された。このように、課程標準の改訂は教科書改革の方向性に影響を与えていることが明らかである。また、教科書改革における教師の役割も極めて重要であると考えられる。教師が教科書を通じて教育目標を明確にし、授業をより効果的に進めるためには、課程標準の改革だけでなく、教科書の内容や構成の改善が求められる（教育部，2020a）。このような背景を踏まえ、次節では小学校体育教科書の概念について考察する。

2. 中国における小学校体育教科書の概念

義務教育段階における教科書制度を充実させ、教科書の水準を向上させるために、「中華人民共和國教育法」や「中華人民共和國義務教育法」などの法律および関連規定に基づき、教育部は「小中学校教科書管理弁法」を制定した。また、教育部（2020b）は義務教育段階における教科書は、義務教育國家課程教學用書目録に記載されている教科書を使用しなければならないと規定している。

中国の體育教科書は、學校教育における體育授業で使用される教材であると同時に、中国における體育の文化を伝承する重要な役割を担っている。また、教師が児童に體育に関する豊富な知識や技能を効果的に伝えるための媒体としても機能し、體育授業において極めて重要な役割を果たしている（張・毛，2009）。陳（2013）によれば、中国の體育教科書は主に「児童用教科書、教師用教科書（教師用指導書）、音声・映像教科書」の3種類に分類される。中国の小学校段階では、「義務教育國家課程教學用書目録」（2022）に記載されている體育教科書は6社が選定されており、いずれも教師用教科書（教師用指導書）である（表1—1）。これらの教師用指導書は、主に教師が授業を設計し、指導を効果的に進めるためのサポートを目的としており、項（2018）はその内容について、学習内容の枠組み、單元設計の意図、授業の要点、課程標準や教授法の解説、および教授

¹ 國務院は、中国の中央政府機関で、日本の内閣府に相当する行政機関である。具体的には、經濟政策、外交、安全保障、教育、科學技術など、多くの分野で中国全土にわたる行政管理を担当している。

法に関する提案や参考資料が含まれていることを明らかにしている。

表 1—1 中国における小学校の体育教科書の一覧

編集長	編纂・出版機関	名称
羅希堯	北京教育科学研究院・ 北京出版社	『義務教育教科書・体育与健康教師用書』
李艷群	河北省教育科学研究院・ 河北教育出版社	『義務教育教科書・体育与健康教師用書』
季 瀏	華東師範大学・ 華東師範大学出版社	『義務教育教科書・体育与健康教師用書』
楊文軒	科学出版社	『義務教育教科書・体育与健康教師用書』
耿培新	人民教育出版社	『義務教育教科書・体育与健康教師用書』
許世岩	未来出版社	『義務教育教科書・体育与健康教師用書』

(2022 年義務教育国家課程教学用書目録より抜粋)

6 社の中でも、人民教育出版社は教育部に所属する教科書専門の出版会社であり、1950 年の設立以来、計 11 種類の小・中学校用教科書を改訂・出版している（樊，2022）。さらに、人民教育出版社の教科書は、歴史が長く、権威性が高いことでも知られている（観察者網，2022）。同出版社は設立以来、歴代の小・中学校各教科の課程標準の策定に参加しており、中国の教師に広く使用されている教科書を提供している（嚴・孔，2013）。人民教育出版社は、課程標準の要求に基づき、小学校の体育教科書（人民教育出版社，以下「人教版」と略す）を 1 年生・2 年生の低学年用、3 年生・4 年生の中学年用、5 年生・6 年生の高学年用の全 3 冊に分けて改訂した（図 1—1）。



図 1—1 中国の小学校における体育教科書 1～6 年生用 全 3 冊

以上を踏まえ、本研究では、人民教育出版社によって出版され、小学校の体育授業で正式に使用されている「義務教育教師用書・体育と健康」（人教版）を対象とする。このように、中国の小学校体育教科書は、教師の授業計画や指導を支援するだけでなく、児

童・生徒に体育に関する知識や技能を効果的に伝えるための重要な媒体である。しかし、その具体的な使用状況や教師がどのように活用しているかについては、依然として不明な点が多い。そこで、次節では、小学校体育教科書使用の現状と、それに関連する課題について整理し、先行研究の知見を基に考察を進める。

3. 中国における体育教科書の使用に関する課題

中国における教科書研究は、主に教科書の内容に焦点が当てられており、約3分の2が教科書の分析に基づく研究である(張・黄・石, 2018)。一方、義務教育段階において、教師が教科書をどのように使用しているかについての研究は限定的である(石, 2007; 張, 2015)。これは、教師による教科書の使用状況を研究するには、授業観察やインタビュー、アンケート調査などのデータ収集が必要であることによると考えられる。(李, 2015; 王, 2022) これらの方法は単なる教科書内容の分析に比べてはるかに複雑で時間を要する。一方、中国は国土が広く、地域ごとに教育資源や教科書の使用 방법에大きな差異が存在すること(楊, 2014)も、データ収集の難しさが増している要因といえる。さらに、中国建国初期には「一綱一本」²という統一された教科書制度が長期間採用され、教師は教科書を「聖書」のように扱い、強く依存していたことが報告されている(嚴・孔, 2013)。2001年以降、「一綱多本」³の方針に基づき、教科書の種類が多様化し、教師がより柔軟に指導方法を実践できるようになった。この政策変更は、教科書使用研究に新たな視点を提供したものの、教育実践の多様化が研究に十分反映されるには時間が必要であると考えられる。また、中国は地域によって教育資源や教科書の使用状況が大きく異なり、既存の研究は主に東部地方に集中しており、中・西部地方の教科書使用に関する研究は依然として不足している。加えて、歴史的・政策的要因や地域差だけでなく、教科によっても教師の教科書使用方法には大きな違いがあると考えられる。

体育は実技と理論が融合した特性を持つため、他の理論中心の教科とは異なる特殊性がある(何, 2016)。先行研究では、体育教科書の使用率が他の教科に比べて著しく低いことが指摘されている(呉, 2022)。陳(2005)は、中学校体育教師が教科書の内容を十分に指導していないため、生徒の教科書使用率が低く、教科書が本来持つ教育的役割を果たしていないと述べている。また、張(2010)は一部の体育教師が教科書を使用せず、教科書に基づく授業計画や進行を行っていないことを明らかにしている。こうした問題は、体育教師の教科書使用に対する意識や習慣に悪影響を及ぼしている可能性があると考えられる。さらに、教師が授業で教科書を使用する際、教科書への依存度や使用法が教師によって大きく異なる(陳, 2005)ため、いくつかの誤解や問題点も存在している。例えば、徐(2022)の研究によると、初任教师はベテラン教師に比べて授業を受ける生徒の個性を理解するためにより多くの時間を必要とし、また授業経験が不足しているため、教科書に費やす時間が少ないことが指摘されている。また、進学制度を過度に意識するあまり、児童・生徒の思考発達を考慮せずに運動の練習量や難易度を引き上げ、生徒の負担を増加させている(嚴・孔, 2013)。実技指導の時間を確保するために、教科書に記載された理論的な内容を軽視する傾向がある(高, 2009) ケースも挙げられる。

2 「一綱一本」では、中国の教育政策において、国家統一の「教学大綱」に基づき、中国国内で統一された教科書を定めることが原則であった。

3 「一綱多本」とは、中国国家教育委員会が制定した「教学大綱」に基づいて、経済的、文化的な背景が異なる地域の実情に応じた多様な教科書を作成することである。

これらの課題は、体育教科書の使用率の低さや教師の教科書に対する適応性の欠如に繋がっていると考えられる。

体育教科書の使用状況は、以上のような個々の教師の要因だけでなく、教科書の内容や授業環境、地域の教育資源の配分など、多様な要因に左右される。まず、李（2015）は、中学校教師が指導する際に教科書内容と生徒の日常生活との乖離が、教師と生徒双方の教科書適応性に影響を及ぼしていると指摘している。その要因として、教科書の内容が実際の生活場面や生徒の運動経験に即していないことが挙げられる。例えば、傅・楊・馮（2004）によって、地域間の教育リソースの不均衡が教師の指導力向上を妨げていることが指摘されている。また、高（2009）は上海市における課程標準と教科書の指導を踏まえ、都市部の体育授業で提案される運動項目や活動形式が、農村部では施設や器材の不足により実施困難なケースが多く、これが教科書の効果的な活用にも影響を及ぼしていると述べている。河北省の中学校を対象とした王・韓（2007）の調査でも、運動施設や器材の不足、管理職の理解や支援の欠如が教科書使用の主な障害要因であることが示された。一方で、劉（2008）は、体育教科書の使用が研修を通じて教師の授業内容に対する理解を深める効果を持つことを明らかにしている。また、肖（2022）も、教科書内容に関する研修が教師の教育現場での実践力向上に不可欠であることを示しており、特に教科書の意図や目標を正しく理解するための研修の重要性を強調している。例えば、徐（2023）の調査では、定期的な教科書研修を受けた教師は、教科書の効果的な活用を通じて生徒の学習成果を向上させていることが確認された。

以上の先行研究は、主に体育教師の教科書使用やそれに関連する課題に焦点を当てており、特に中学校段階の研究が多くを占めている。一方で、小学校に関する研究は十分に進んでいない。小学校体育は基礎的な教育の重要な部分であり、児童の成長・発達を促し、青年期や生涯にわたる健康に影響を与えると推察される（劉，2021）。このように、小学校段階は児童が基礎的な知識を学び蓄える時期であると同時に、学習への興味・関心、学習の習慣および学習の能力を養成する最も重要な時期であり（樊，2022）、この段階における教育内容や指導方法の質を高めることが求められる。その中で、教師は児童の学習意欲を引き出し、効果的な指導を実現する中心的な役割を担っている（盧，2015）。特に、体育教科書は、教師の授業準備や授業実施、学習評価において不可欠なリソースであり、教師の使用状況や意識が教育の質に大きく関わっている（張，2011）。体育の授業では、教師が教科書をどのように使用するかが教育効果を左右する要因となるため、教科書の使用法やその影響要因を明らかにすることが重要であると考えられる。このため、小学校体育教師が教科書をどのように使用しているのか、またその使用状況に影響を与える要因について検討することが重要である。

そこで、本研究は、中国の小学校体育教師を対象に、体育教科書の使用状況とその影響要因を明らかにすることを目的としている。これにより、体育教科書の効果的な改訂や活用に向けた具体的な示唆を得ることを目指す。

II. 方法

1. 調査対象及び調査方法

まず、本調査は中国における教育研究分野で広く活用されている「WJX」ネットワークプラットフォーム（邱，2024；謝，2023）を用いての質問紙調査を実施した。対象者は中国の公立小学校に勤務する体育教師であった。次に、教師の学校所在地について、湖南統計局（2005）の政策を参考に、社会経済発展のレベルに応じて、中国を東部、中

部、西部の3つの地域と分類した。その上で、各地域において機縁法を活用し、協力を得られた公立小学校教師の SNS などを通じてスノーボールサンプリングを用いて回答者を募集した。スノーボールサンプリングは、既存の対象者から次の対象者を紹介してもらうことで調査範囲を拡大し、回答率とデータの質を向上させることが可能である。また、通常特定の職業団体にもアプローチしやすくなる点である(楊, 2022; 邵, 2024)。総回答者数は183名、有効回答数は179名(女70名、男109名)であった。調査時期は2024年5月27日から6月10日までの15日間であった。

2. 調査内容及びデータ分析

調査内容として、対象者の基本属性として、学校所在地、性別および教職経験年数について回答を求めた。学校所在地について、湖南統計局(2005)の政策を参考に、中国は社会経済発展のレベルに応じて、東部、中部、西部の3つの地域と分類した。教職経験年数について、木原(2004)の分類を参考に、初任教師を5年以内、中堅教師を6から15年、ベテラン教師を16年以上と分類した。そして、本研究の目的を達成するために、岩田・佐見・渡辺(1999)が作成した小学校教師を対象とした保健教科書に関する質問紙を参考に、筆者が中国語版の体育教科書の使用状況に関する調査項目を作成した、表2-1は日本語翻訳を行ったものである。

表 2-1 中国における体育教科書の使用状況に関する調査項目

基本属性	Q1 学校所在地	東部地方	中部地方	西部地方	—
	Q2 性別	男性	女性	—	—
	Q3 教職経験年数	5年以内	6から15年	16年以上	—
質問項目		1	2	3	4
体育教科書の使用	Q4 体育教科書をどの程度使用されていますか？	全く使用しなかった	ほとんど使用しなかった	ほとんど毎時間使用した	毎時間必ず使用した
体育教科書の評価	Q5 あなたは、体育教科書の記述内容が、子どもにとって、難しいと思われませんか？	かなり難しいと思う	やや難しいと思う	やや簡単だと思う	かなり簡単だと思う
	Q6 あなたは、体育教科書の分量が、子どもにとって、多いと思われませんか？	かなり少ないと思う	やや少ないと思う	やや多いと思う	かなり多いと思う
体育授業の環境	Q7 体育教科書を使用したことで、体育の授業がやりやすくなりましたか？	かなりやりにくくなった	やややりにくくなった	やややりやすくなった	かなりやりやすくなった
	Q8 体育教科書が使用してから、体育の授業時間の確保が容易になりましたか？	全くそう思わない	あまりそう思わない	まあそう思う	とてもそう思う
体育の内容に対する理解	Q9 体育教科書を使用してから、学習指導要領の内容が、より具体的にイメージできるようになりましたか？	全くそう思わない	あまりそう思わない	まあそう思う	とてもそう思う
体育授業に対する意欲への影響	Q10 体育教科書を使用してから、教材研究にかける時間が多くなりましたか？	とても少なくなった	少し少なくなった	少し多くなった	とても多くなった
	Q11 体育教科書を使用してから、クラス担任同士で、体育教科書の内容や、体育教科書の記述について、情報交換をすることが増えましたか？	全く減った	少し減った	少し増えた	全く増えた
	Q12 体育教科書を使用してから、体育教科書に関する研修や研究会等に参加しようとする気持ちになりましたか？	全くならなかった	少しならなかった	少しなった	とてもなった
体育に対する周囲の関心への影響	Q13 体育教科書を使用してから、子どもの方から、体育の内容や、体育の教科書の記述についての質問が、出てくるようになりましたか？	全く出てこなかった	少し出てこなかった	少し出てくるようになった	たくさん出てくるようになった
	Q14 体育教科書を使用してから、保護者から、体育の内容や、体育の教科書の記述についての質問が、出てくるようになりましたか？	全く出てこなかった	少し出てこなかった	少し出てくるようになった	たくさん出てくるようになった

具体的な項目は、体育教科書の使用に関すること1問、体育教科書の評価に関すること2問、体育授業の環境に関すること2問、体育の内容に対する理解に関すること1問、

体育授業に対する意欲への影響に関すること 3 問体育に対する周囲の関心への影響に関すること 2 問、以上の 14 問から構成された。これからの統計分析を円滑に進めるため、質問項目について 4 件法を用い、得点化して分析した。

データ分析には、まず、基本属性の学校所在地、性別、および教職経験年数により単純集計を行った。次に、基本属性により体育教科書の使用状況と体育教科書への評価を明らかにするために、クロス集計とカイ 2 乗検定を行った。続いて、体育教科書の使用を従属変数、体育教科書の評価、体育授業の環境、体育の内容に対する理解、体育授業に対する意欲への影響、体育に対する周囲の関心への影響および有意差が見られた基本属性を独立変数とし、Spearman で相関係数を求め、強制投入法による重回帰分析を行った。統計処理には SPSS Statistics version.27 (IBM 社) を用い、有意水準は 5%未満とした。

3. 倫理的配慮

対象者に対する倫理的配慮として、研究依頼書・計画書には研究の目的、参加の自由性、データの管理方法、プライバシーの保護、研究成果の公表について明記した。また、アンケート調査を実施するにあたり、「調査協力に同意する」意思を記入する欄を設けた。なお、本研究は広島大学大学院人間社会科学研究科倫理審査委員会の承認を得て実施した (承認番号 HR-ES-001672 号)。

III. 結果

1. 研究対象の属性と研究データの信頼性

研究対象の基本属性は表 3-1 に示した。本研究の調査対象は、中国の東部、中部、西部の 3 つの地域にわたって分布しており、東部地方が全体の 40.2%を占めて最も高く、中部と西部はそれぞれ 29.1%と 30.7%でほぼ均等であった。これは経済レベルにより、東部地方には教育資源が集中している点 (湖南統計局, 2005) と一致しており、地域の教育発展レベルを反映していると考えられる。本調査のサンプル分布は、中国の地域特性を適切に反映しており、研究結果の参考性があると評価できる。性別分布を見ると、男性教師の割合は 60.9%で、女性教師の割合は 39.1%であることがわかる。また、教職経験年数の分布を見ると、5 年以内の初任教師の割合が最も高いものの、全体的には各教職経験年数層の分布が比較的均等であり、回収されたデータは今後の統計分析に適していると考えられた。

表 3-1 研究対象の基本属性

		n=179	
		n	%
学校所在地	東部地方	72	40.2
	中部地方	52	29.1
	西部地方	55	30.7
性別	女	70	39.1
	男	109	60.9
教職経験年数	5 年以内	67	37.4
	6 から 15 年	53	29.6
	16 年以上	59	33.0

本研究では、岩田・佐見・渡辺（1999）が作成した質問紙を使用した。中国での調査に基づいているため、その信頼性をさらに確認するために、SPSS を用いて信頼性の統計分析を実施した。本調査における Cronbach の α は 0.933 であった（Q4-Q14）。また、標準化された項目に基づいた Cronbach の α は 0.935 であった（Q4-Q14）。一般に、Cronbach の α が 0.7 を超えると信頼性が良好であるとされ、0.9 を超える場合は非常に高い内部一致性を示すとされる（岡田，2015）。本調査の Cronbach の α 係数が 0.933（Q4-Q14）であったため、アンケートの項目に関して非常に高い信頼性が確認された。したがって、これらの項目は一貫して同じ概念や特性を評価しており、研究データが信頼できるものであると考えられる。

2. 体育教科書の使用

2.1 体育教科書の使用状況について

表 3-2-1 では、全体対象者及びその学校所在地、性別、教職経験年数による体育教科書の使用状況についてのクロス集計とカイ 2 乗検定の結果を示した。

まず、全体として、59.2%の教師が「毎時間必ず使用した」と回答し、23.5%が「ほとんど毎時間使用した」と回答しており、8 割以上の体育教師が教科書に使用していることが分かった。

次に、学校所在地によって、東部地方では、「毎時間必ず使用した」と回答した教師の割合が 61.1%と最も高く、地域全体の教科書使用頻度が非常に高いことが分かった。一方で、「全く使用しなかった」との回答はわずか 1.4%であり、教科書の使用頻度が高いことが分かった。中部地方では、「毎時間必ず使用した」と回答した割合は 53.8%であり、東部地方に比べやや低いものの、依然として過半数を占めている。しかし、「全く使用しなかった」と回答した割合は 9.6%と、他の地域に比べて高く、中部地方における教科書の使用頻度にはばらつきが見られる。西部地方では、「毎時間必ず使用した」と回答した割合が 61.8%と、東部地方を上回っており、教科書の使用頻度が比較的高い一方で、「ほとんど使用しなかった」（14.5%）や「ほとんど毎時間使用した」（23.6%）との回答も一定の割合を占めている。全体として、東部地方と西部地方の教科書使用頻度は高い傾向にあるが、中部地方では使用頻度が相対的に低いことが明らかになった。

続いて、性別差を見ると、男性教師のうち、53.2%が「毎時間必ず使用した」と回答し、28.4%は「ほとんど毎時間使用した」と回答していた。一方、2.8%の男性教師は「全く使用しなかった」と回答していた。女性教師においては、68.6%が「毎時間必ず使用した」と回答し、これは男性の 53.2%よりも高い割合である。4.3%の女性教師は「全く使用しなかった」と回答し、男性の 2.8%をわずかに上回っていた。

そして、教職経験年数によって、5 年以内の初任教師の回答は「ほとんど毎時間使用した」および「毎時間必ず使用した」に集中し、両者を合わせると 7 割以上となっていた。しかし、「全く使用しなかった」という回答では初任教師が全体の 100%を占め、一方で「毎時間必ず使用した」では 26.4%しか占めておらず、教科書の使用頻度が比較的低いことが分かった。6 から 15 年の中堅教師は 6 割以上「毎時間必ず使用した」と回答し、高い教科書使用頻度を示していた。しかし、中堅教師の回答は比較的分散しており、「全く使用しなかった」という回答はなかったが、他の回答はほぼ均等に分布していた。「毎時間必ず使用した」という項目では 16 年以上のベテラン教師が 40.6%を占めていた。また、ベテラン教師の 72.9%が「毎時間必ず使用した」と回答し、最も高い教科書使用頻度を示していた。

最後に、基本属性に関して、表 3-2-1 では、学校所在地や性別による教科書の使用の差異について有意差は認められなかった ($p = 0.101$, $p = 0.140$)。これらの結果から、学校所在地や性別が教科書使用頻度に影響を与えている可能性が示唆されるものの、有意な関連が確認されなかったため、この差異が偶然によるものである可能性も否定できない。一方、教職経験年数と教科書の使用の差異について、有意な差が確認された ($p < .001$)。これは、教職経験年数が教科書の使用状況に関連している可能性があることを示唆している。

表 3-2-1 体育教科書の使用状況について

		Q4 体育教科書の使用					χ^2	p
		1 全く使用し なかった	2 ほとんど使 しなかった	3 ほとんど 毎時間使用 した	4 毎時間必 ず使用した	合計		
		度数	1	8	19	44	72	
		Q1 の%	1.4%	11.1%	26.4%	61.1%	100.0%	
東部地方		Q4 の%	16.7%	32.0%	45.2%	41.5%	40.2%	
		総和の%	0.6%	4.5%	10.6%	24.6%	40.2%	
Q 1 学校 所在地		度数	5	9	10	28	52	10.627
		Q1 の%	9.6%	17.3%	19.2%	53.8%	100.0%	
中部地方		Q4 の%	83.3%	36.0%	23.8%	26.4%	29.1%	
		総和の%	2.8%	5.0%	5.6%	15.6%	29.1%	
西部地方		度数	0	8	13	34	55	
		Q1 の%	0.0%	14.5%	23.6%	61.8%	100.0%	
		Q4 の%	0.0%	32.0%	31.0%	32.1%	30.7%	
		総和の%	0.0%	4.5%	7.3%	19.0%	30.7%	
Q2 性別		度数	3	17	31	58	109	5.470
		Q2 の%	2.8%	15.6%	28.4%	53.2%	100.0%	
男性		Q4 の%	50.0%	68.0%	73.8%	54.7%	60.9%	
		総和の%	1.7%	9.5%	17.3%	32.4%	60.9%	
女性		度数	3	8	11	48	70	
		Q2 の%	4.3%	11.4%	15.7%	68.6%	100.0%	
		Q4 の%	50.0%	32.0%	26.2%	45.3%	39.1%	
		総和の%	1.7%	4.5%	6.1%	26.8%	39.1%	
Q3 教職 経験年数		度数	6	12	21	28	67	20.125
		Q3 の%	9.0%	17.9%	31.3%	41.8%	100.0%	
5 年以内		Q4 の%	100.0%	48.0%	50.0%	26.4%	37.4%	
		総和の%	3.4%	6.7%	11.7%	15.6%	37.4%	
6 から 15 年		度数	0	7	11	35	53	
		Q3 の%	0.0%	13.2%	20.8%	66.0%	100.0%	
		Q4 の%	0.0%	28.0%	26.2%	33.0%	29.6%	
		総和の%	0.0%	3.9%	6.1%	19.6%	29.6%	
16 年以上		度数	0	6	10	43	59	
		Q3 の%	0.0%	10.2%	16.9%	72.9%	100.0%	
		Q4 の%	0.0%	24.0%	23.8%	40.6%	33.0%	
		総和の%	0.0%	3.4%	5.6%	24.0%	33.0%	
合計		度数	6	25	42	106	179	
		総和の%	3.4%	14.0%	23.5%	59.2%	100.0%	

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$

2.2 体育教科書への評価について

表 3-2-2 は、全体の調査対象者が体育教科書に対して示した評価を難易度と分量の 2 つの側面から単純集計した結果を示している。

難易度について、調査対象者の 45.3% が「やや簡単だと思う」と評価し、27.9% が「か

なり簡単だと思う」と回答していた。つまり、全体の約7割以上が「簡単」と感じていることがわかった。一方で、「やや難しいと思う」と答えたのは25.1%、そして「かなり難しいと思う」としたのはわずか1.7%にとどまっており、難易度に対する不満は少ないといえる。分量に関しては、43.6%が「やや多い」と感じ、28.5%が「かなり多い」と評価しており、7割以上の体育教師に対して分量が多いと感じている。逆に「やや少ない」と感じる割合は23.5%、「かなり少ない」は4.5%となっており、「少ない」と感じる層は少数派であることがわかった。

表3-2-2 体育教科書への評価について

難易度	1 かなり難しいと思う	2 やや難しいと思う	3 やや簡単だと思う	4 かなり簡単だと思う
	3 (1.7%)	45 (25.1%)	81 (45.3%)	50 (27.9%)
分量	1 かなり少ないと思う	2 やや少ないと思う	3 やや多いと思う	4 かなり多いと思う
	8 (4.5%)	42 (23.5%)	78 (43.6%)	51 (28.5%)

2.3 体育教科書の使用に影響を与える要因

本研究では、体育教科書の使用がどのような要因によって影響を受けるかを検討するために、体育教科書の使用を従属変数、体育教科書の評価、体育授業の環境、体育の内容に対する理解、体育授業に対する意欲への影響、体育に対する周囲の関心への影響、そして、表3-2-1により有意差が見られた教職経験年数を独立変数とし、Spearmanで相関係数を求め、強制投入法による重回帰分析を行った。

まず、表3-2-3により体育教科書の使用状況と他の6つの変数との相関関係を示していた。体育教科書の使用状況は、体育教科書への評価と0.449、体育授業の環境と0.554、体育の内容に対する理解と0.510、体育授業に対する意欲への影響と0.568、体育に対する周囲の関心への影響と0.460、教職経験年数と0.281の正の相関を示していた。以上の結果から、各変数間に有意な正の相関が見られた。

表3-2-3 各変数の相関

	1	2	3	4	5	6	7
1. 体育教科書の使用	1						
2. 体育教科書への評価	0.449**	1					
3. 体育授業の環境	0.554**	0.557**	1				
4. 体育の内容に対する理解	0.510**	0.517**	0.784**	1			
5. 体育授業に対する意欲への影響	0.568**	0.553**	0.761**	0.840**	1		
6. 体育に対する周囲の関心への影響	0.460**	0.576**	0.669**	0.639**	0.800**	1	
7. 教職経験年数	0.281**	0.187*	0.210**	0.198**	0.271**	0.207**	1

*p<0.05 **p<0.01

次に、表3-2-4では、体育教科書の使用を従属変数、体育教科書の評価、体育授業の環境、体育の内容に対する理解、体育授業に対する意欲への影響、体育に対する周囲の関心への影響および教職経験年数を独立変数とし、強制投入法による重回帰分析の結果を示した。

表 3-2-4 体育教科書の使用を従属変数とした重回帰分析結果

	体育教科書の使用				
	B	β	t	p	VIF
体育教科書への評価	0.213	0.169	2.289	0.023*	1.656
体育授業の環境	0.277	0.243	2.481	0.014*	2.916
体育の内容に対する理解	-0.019	-0.016	-0.147	0.883	3.408
体育授業に対する意欲への影響	0.399	0.350	2.751	0.007**	4.929
体育に対する周囲の関心への影響	-0.045	-0.047	-0.457	0.648	3.206
教職経験年数	0.126	0.124	2.083	0.039*	1.086
R ²			0.436		
調整 R ²			0.416		

*p<0.05 **p<0.01

モデル全体の決定係数 (R^2) は 0.436、調整済み決定係数 (調整 R^2) は 0.416 であり、このモデルが体育教科書の使用の約 43.6%を説明していることがわかった。個別の独立変数においては、体育教科書への評価 ($\beta = 0.169, p = 0.023$)、体育授業の環境 ($\beta = 0.243, p = 0.014$)、体育授業に対する意欲への影響 ($\beta = 0.350, p = 0.007$)、教職経験年数 ($\beta = 0.124, p = 0.039$) の 4 つにおいて有意な正の影響があった。一方で、体育の内容に対する理解 ($\beta = -0.016, p = 0.883$) と体育に対する周囲の関心への影響 ($\beta = -0.047, p = 0.648$) はいずれも有意な影響が見られなかった。また、VIF はすべて 10 未満であり、多重共線性の問題はないと判断された。

以上の結果から、体育教科書の使用には、教職経験年数、教科書に対する評価、体育授業の環境、そして体育授業に対する意欲への影響といった多様な要因が関与していることが示された。特に、体育授業に対する意欲への影響が最も強い正の影響を示し、クラス担任同士間の情報交換を活性化させたり、教材研究に費やす時間を増やしたり、教師が研修に参加する機会を拡充することが、教科書利用の促進に大きく寄与していることが示唆された。また、体育教科書への評価や授業環境も有意な正の影響を与えており、肯定的な評価と良好な環境が教師による教科書活用に寄与する傾向が明らかになった。一方、教職経験年数の影響は相対的に低かったが、経験豊富な教師ほど教科書を効果的に活用する可能性があることも確認された。これらの知見を踏まえ、教科書の使用を一層促進するためには、教科書の難易度と分量の調整に加え、教師に対する研修機会の充実および授業環境の改善に向けた具体的な施策が不可欠であると考えられる。

IV. 考察

1. 中国小学校における体育教科書の使用についての考察

1.1 体育教科書の使用状況について

全体の研究対象者の教科書使用状況について、約 59.2%の教師が「毎時間必ず使用した」と回答し、23.5%の教師が「ほとんど毎時間使用した」と回答した (表 3-2-1)。これにより、80%以上の教師が体育の授業で頻繁に教科書を使用していることが示された。つまり、体育教科書が教師にとって指導上の重要なツールとなっているということが窺えた。

学校所在地と教科書の使用の差異について、有意な影響を与えていないことが確認された ($p=0.101$)。これは、地域が体育教科書の使用に影響を与える主要な要因ではないことを示唆している。その理由として、全国共通の課程標準や教学用書目録が教育内容の均質化を促進していることが挙げられる。また、教育部 (2020a) は、中部や西部の発展途上地域における教師支援を積極的に奨励しており、これにより発展途上地域の教育水準が徐々に向上している。教育の重要な一環である教科書の使用状況についても、この支援を背景に改善が進んでいると考えられる。

性別の観点から分析を行った結果、性別は教科書の使用に有意な影響を与えていないことが確認された ($p=0.140$)。これは、性別が体育教科書の使用に影響を与える要因ではないことを示唆しているといえよう。張 (2011) は、性別により、教師の指導スタイルや日常の指導における好みに多少の違いが生じる可能性があるが、これらの違いは体育教科書の使用に大きな影響を与えるほどではないと指摘している。小学校教師を対象とした場合、性別が体育教科書の使用に影響を与えないことが示された。

一方、教職経験年数と教科書の使用の差異について、有意な差が確認された ($p<.001$)。特に、5年以内の新任教師は「全く使用しなかった」または「ほとんど使用しなかった」という回答が多い一方で、16年以上のベテラン教師は「毎時間必ず使用した」という回答の割合が高かった。これは、新任教師が教科書の使用習慣や授業経験に不足していることに起因する可能性があると考えられる。張 (2014) により、新任教師は指導過程で教科書の指導よりも口頭指導や現場でのデモンストレーションを重視する可能性がある。対照的に、ベテラン教師は、より頻繁に教科書を使用する傾向があると思われる。張 (2014) は、教職経験が豊富な教師ほど、指導を体系的に進め、教科書を効果的に利用する傾向があると指摘した。教科書から構造化された指導サポートをより適切に得ることができ、その経験により教科書をより効果的に使用して指導結果を最適化できるためと考えられる。

1.2 体育教科書への評価について

教師による体育教科書への評価は、教科書の使用に重要な役割を果たしている。本研究では、体育教科書への評価を難易度と分量の観点から分析した結果、調査対象者の多くが教科書の難易度を「やや簡単だと思う」または「かなり簡単だと思う」と回答し、分量については「やや多い」または「かなり多い」と感じていることがわかった。王 (2006) の研究によれば、難易度が過度に高い教科書は、学習者が理解しにくく、学習への動機が低下する可能性があるとして指摘している。本研究において、難易度が「簡単」と評価されていることは、指導上の負担が軽減され、教科書の利用促進に寄与している可能性があると考えられる。一方、分量については半数以上が「多い」と感じている結果から、体育教科書の内容が教師にとって豊富すぎるとの印象を与えている可能性がある。劉・成 (2008) は、教科書の分量が多すぎる場合、必要な指導内容に絞り込む工夫が求められると述べており、本研究でも分量の調整がさらに効果的な教科書活用の鍵となることが示唆される。

2. 体育教科書の使用に影響を与える要因についての考察

本研究では、体育教科書の使用に影響を与える要因として、教職経験年数、体育教科書への評価、体育授業の環境、さらに体育授業に対する意欲が重要な役割を果たしていることが明らかとなった。

まず、教職経験年数が教科書の使用に有意な影響を与えることが確認された。教職経験が豊富な教師ほど教科書を積極的に活用する傾向があり、特に16年以上のベテラン教師において「毎時間必ず使用した」という回答が多く見られた。これは、ベテラン教師が教科書を基盤とすることで、指導内容を整理しやすくなり、また授業の進行をスムーズにする効果があるためと考えられる。本研究結果もこの見解を裏付けており、教職経験が多いほど教科書が指導の一貫性や体系性を保つ重要な支援ツールとなることが示唆された。

次に、体育教科書への評価もその使用に影響を与える要因であることが確認された。楊(2019)は、教科書の内容が適切な難易度や分量である場合、教師が自信を持って授業を進行できると述べており、授業の効果が上がると指摘している。本研究でも、簡単に分量が適切な教科書が教師にとって扱いやすいと感じられ、その結果、使用頻度が高まっていることが示唆されている。楊(2014)の研究によると、教材内容の繰り返しや過度な複雑さが、児童・生徒の運動能力の発展を妨げる要因となることが指摘されている。このため、教科書のデザインにおいては、現場の教師が扱いやすいように難易度や分量の適切な調整が求められる。

また、体育授業の環境も教科書の使用に大きな影響を与えることが明らかになった。授業の進行や授業時間の確保がスムーズであるほど教科書の使用頻度が高くなる傾向が見られた。康・余・熊(2011)は、体育の授業では指導内容に合わせた環境整備が重要であり、特に授業時間が確保されていることが指導の質向上に寄与すると述べている。体育は準備や後片付けの時間が必要なため、授業時間が不十分な場合、教科書を用いた指導が十分に行えない可能性がある。本研究の結果もこの指摘と一致しており、適切な授業環境が整備されることで、教科書を活用した指導が円滑に進むことが期待される。

最後に、体育授業に対する意欲も教科書使用に対して重要な影響を与える要因であると考えられる。特に、教材研究への意欲、教師間の情報交換、および教科書に関する研修への参加意欲が高い教師ほど、教科書の使用頻度が高いことがわかった。劉(2008)は、「研修参加が教師の指導意欲を高め、教科書を活用した授業改善を促進する役割を果たしている」(p.157)と述べている。また、徐(2023)の研究では、教科書に関する研修の時間を延長し、教師間の交流を深めることが、教師の指導力向上に寄与するとともに、その結果として教科書を効果的に活用した指導が可能になることが示唆されている。

以上の考察から、体育教科書の使用には、教職経験年数、体育教科書への評価、体育授業の環境、そして体育授業に対する意欲といった多様な要因が関与していることが確認された。これらの要因を考慮し、教育現場における教科書の使用を支援するための環境整備や研修の充実が望まれる。特に、教職経験や意欲に応じた支援策を講じることで、体育教科書のより効果的な活用が期待できると考えられる。

V. 本研究のまとめと今後の研究課題と研究の限界性

本研究は、中国の小学校体育教師を対象に、体育教科書の使用状況とその影響要因を明らかにすることを目的とした。以下、本研究の成果として3点に整理することができる。

1) 本研究では、全体の8割以上の小学校体育教師が授業で頻繁に教科書を使用していることが明らかになった。また、教職経験年数によって教科書の使用に差があり、特に教職経験年数が高い教師ほど教科書の使用頻度が高いことが確認された。

2) 体育教科書の内容に関する評価として、難易度と分量の両側面から分析を行った結

果、難易度においては「簡単」と評価する教師が大多数を占め、分量に関しては「多い」と評価する教師が多いことが示された。これらの評価が教科書使用頻度に直接的な影響を及ぼしていることが確認された。

3) 体育授業の環境と体育授業に対する意欲が、体育教科書の使用に有意な影響を及ぼすことが明らかになった。特に、意欲的な教材研究や情報交換および研修への参加が教科書使用頻度の向上に寄与することが確認された。

最後に、本研究の限界性と今後の展望について述べる。

まず、本研究では、中国の公立小学校体育教師を対象に教科書使用の実態を明らかにするため、スノーボールサンプリング法を用いてデータを収集した。この方法は効率的にサンプルを集める利点があるものの、サンプルの多様性や代表性に制限がある点が課題として挙げられる。今後は、データの抽出方法を改善し、教育行政機関を通じてアンケートを実施することで、より代表性・多様性のあるデータを収集することが求められる。

次に、データ解釈においては、本研究の結果が示す相関関係に基づき因果関係を議論する際に慎重さが求められる。特に、教科書使用に影響を与える要因については、現時点では十分に因果構造を解明できておらず、さらなる検証が必要である。ほかの分析手法を活用することで、複雑な要因間の関係を明らかにすることが期待される。また、提示した内容には推測に基づく部分が含まれるため、今後は追加データの収集や質的分析を組み合わせ、多面的に教科書使用の実態を検討し、解釈の妥当性を高めていく必要があると考えられる。

また、本研究は中国国内の小学校教師を対象としており、諸外国との教科書使用状況の比較を行っていない点が限界として挙げられる。今後は国際的な視点から、各国における教科書使用の実態や研究のあり方を調査することで、中国の課題や強みをより深く理解し、他国の教育実践を参考にすることが期待される。他国との比較を通じて、異なる教育制度や文化的背景における教科書使用の共通点や相違点を明らかにすることで、より普遍的な知見の獲得に寄与すると考えられる。

最後に、教科書を活用した具体的な指導方法や実践例についての研究が不足している点も今後の課題である。教科書を効果的に活用するための実践事例を収集し、それらを基にした指導案を提示することは、教育現場での実務に大きく貢献する可能性がある。以上の点を踏まえ、今後は継続的な調査研究を通じて、教育政策や現場実践に有益な知見を提供できるように教科書使用の状況を把握し、教師への支援の在り方を再検討していく必要がある。

VI. 参考論文

- 1] 陳帥・張大超・徐尊 2022 「新時代背景下美国中小学体育教科書对我国体育教科書建設的啓示」『体育教学』2022(10), pp.72-75。
- 2] 陳偉 2013 「安徽省普通高校大学体育教科書使用現状調査」『商丘師範学院学報』29 卷 3 号, pp.134-136。
- 3] 陳俠 2005 「初中体育教学中学生使用体育課本の実践研究」『科学教育』15 卷 9 号, pp.16-18。
- 4] 樊梅 2022 「中日初中体育与健康教科書比較研究」四川師範大学修士論文。
- 5] 傅建霞・楊洪輝・馮之間 2004 「中小学体育与健康課程標準在蘇北地区適應性的調查」『体育学刊』11 卷 3 号, pp.86-89。
- 6] 高芳明 2009 「民工子弟小学体育教学現状の調査分析及对策研究一以上海市閔行区為例」, 華東

師範大学修士論文。

7] 觀察者網 2022・人教社生意版図有多大・

https://www.guancha.cn/politics/2022_05_27_641724_2.shtml・最終アクセス日 2025.01.08。

8] 何晶 2016「上海市初中《体育与健身》教科書使用情况調查研究」上海体育学院修士論文。

9] 湖南統計局 2005 東、中、西部地区怎樣劃分・

https://tjj.hunan.gov.cn/hntj/bsfw/tjzp/tjjz/201507/t20150717_3825094.html#:~:text=%E8%A5%BF%E9%83%A8%E5%9C%B0%E5%8C%BA%E5%8C%85%E6%8B%AC%E5%9B%9B%E5%B7%9D%E3%80%81%E8%B4%B5・最終アクセス日 2025.01.08。

10] 岩田英樹・佐見由紀子・渡辺謙 1999「茨城県の小学校教員を対象とした保健教科書に関する調査研究（第1報）—保健授業実施と教科書の使用—」『学校保健研究』41卷, pp.198-211。

11] 教育部 2020a・中共中央弁公庁国务院弁公庁印発「关于全面加强和改进新时代学校体育工作的意見」和「关于全面加强和改进新时代学校美育工作的意見」・

https://www.gov.cn/zhengce/202010/15/content_5551609.htm・最終アクセス日 2024.10.04。

12] 教育部 2020b・教育部关于印発「中小学教科書管理弁法」「職業院校教科書管理弁法」和「普通高等学校教科書管理弁法」的通知・

http://www.moe.gov.cn/srcsite/A26/moe_714/202001/t20200107_414578.html#01・最終アクセス日 2024.10.04。

13] 教育部 2022・教育部弁公庁关于印発 2022 年中小学教学用書目錄的通知・

http://www.moe.gov.cn/srcsite/A26/s8001/202204/t20220425_621597.html・最終アクセス日 2024.10.04。

14] 蔣新国・李国財 2015「我国中小学体育教科書使用狀況調查与分析—以季瀏主編《体育与健康水平四(七至九年級)》為例」『惠州学院学报』35卷6号, pp.71-79 および 118。

15] 康鵬揚・余娟・熊正英 2011「高中《体育与健康》教学疑難問題研究」『福建体育科技』30卷4号, pp.38-40 および 45。

16] 課程教科書研究所 2022『義務教育体育与健康課程標準(2022年版)解読』, 高等教育出版社。

17] 木原俊行 2004『授業研究と教師の成長』, 日本文教出版, 東京。

18] 劉斌・成双鳳 2008「中学体育与健康教材的問題与对策研究」『湖南師範大学教育科学学报』7卷3号, pp.121-123。

19] 劉海峰 2008「江蘇省揚泰地区高中体育与健康課程教学現狀及發展对策」『黑龍江科技信息』32卷, p.157 および 26。

20] 劉俊彤 2021「日中小学校における体育に関する比較研究—『小学校学習指導要領』(1999年～2008年)と『義務教育課程標準』(2001～2010年)を中心として—」『新潟体育学研究』39卷, pp.25-30。

21] 李紅 2015「新时期樂山市中区初中体育教科書の適応性研究」四川師範大学修士論文。

22] 盧臻 2015「教師專業發展:疏通教学与評価的关系」『現代中小学教育』31卷1号, pp.76-78。

23] 岡田謙介 2015「心理学と心理測定における信頼性について—Cronbachの α 係数とは何なのか、何でないのか—」『教育心理学年報』54卷, pp.71-83。

24] 邱麗華 2024「大数据背景下的小学語文課堂評価実践」『亜太教育』2卷, pp.140-143。

25] 邵思琪 2024「大型社交網絡下聚類滾雪球抽樣算法的性質研究」曲阜師範大学修士学位論文。

26] 石鷗 2007「最不該忽視的研究—关于教科書研究的几点思考」『湖南師範大学教育科学学报』2007(5), pp.5-9。

27] 王麗霞 2006「河北省初中『体育与健康課程標準』实施效果及对策研究」, 河北師範大学修士論文。

- 28] 王麗霞・韓慶如 2007「河北省初中『体育与健康課程標準』實施現狀研究」『科学教育研究』3卷, p.78。
- 29] 王曉桐 2022「教師教材使用研究—以初中英語教師個案—」, 新疆師範大學碩士論文。
- 30] 吳芳芳 2022「初中《体育与健康》教科書助學系統研究」廣州大學碩士論文。
- 31] 肖瀟 2022「部編本小學語文教科書教師使用情況調查研究」, 揚州大學碩士論文。
- 32] 項秀平 2018「淺談對“教師教學用書”的認識及利用—以歷史与社会學科為例」『基礎教育課程』總 228 卷(下), pp.60-63。
- 33] 謝國英 2023「信息技術与小学教學課堂教學融合探索」『學苑教育』27 卷, pp. 34-36。
- 34] 徐慧麗 2023「初中新手數學教師教科書使用情況的調查研究」, 昌吉學院碩士論文。
- 35] 嚴家麗・孔凡哲 2013「國內“教師使用教科書”的研究現狀及其反思」『上海教育科研』5 卷, pp.48-52。
- 36] 楊慧敏 2014「新中国成立以來我國中小學體育教材研究述評」『運動』99 卷, pp.93-94 および 121。
- 37] 楊景博 2022「非概率樣本的統計推斷方法研究」天津財經大學博士學位論文。
- 38] 楊秋穎 2019「義務教育階段体育与健康教科書編制的理論研究」, 華東師範大學博士學位論文。
- 39] 楊文軒・季瀏 2011『義務教育体育与健康課程標準(2011年版)』, 高等教育出版社。
- 40] 郁潔 2015「江蘇省初中体育与健康知識理論課教學現狀調查」揚州大學碩士論文。
- 41] 張芬芬 2015「台灣教科書研究:背景、概況与趨勢」『湖南師範大學教育科學學報』2 卷, 9-14。
- 42] 張海平 2011「浙江省義務教育体育(与健康)必學內容教師用書實施建議探討」『体育教學』6 卷, pp.33-35。
- 43] 張倩・黃毅英・石鷗 2018「教科書的使用:教師与教科書的互動關係研究—基于中国内地、香港和台灣數學教科書的調查与分析—」『華東師範大學學報(教育科學版)』1 卷, pp.77-84。
- 44] 張慶新・毛振明 2009「中国近現代體育教科書發展的回顧与展望」『体育學刊』16 卷 6 号, pp.68-71。
- 45] 張偉 2014「高中體育教師對『体育与健康』課程標準的適應性研究—以太原市為例」, 山西師範大學碩士論文。
- 46] 張宇 2010「湖南省中學使用体育与健康教材的現狀分析」『教學与管理』5 卷, pp.51-52。
- 47] 中華人民共和國教育部 2022『義務教育体育与健康課程標準(2022年版)』, 北京師範大學出版社。